

山口大学医学部&附属病院から笑顔と情報を発信するコミュニケーションマガジン

山|大|医|学|部 病|院|だ|よ|り

Yamaguchi University
Faculty of Medicine and Health Sciences

Yamaguchi University Hospital

News



A棟の気になる数字



新病棟 A棟の 気になる 数字

令和元年6月24日にA棟(新病棟)が開院し、本格的に稼働しました。A棟は地上14階、地下1階で、延べ床面積は3万4552平方メートル。先進救急医療センターや総合周産期母子医療センター、集中治療部(ICU)を集約して、高度急性期医療の充実を強化しています。今回の特集は、A棟の気になる数字をご紹介します。



6階 / 総合周産期母子医療センター

6階総合周産期母子医療センターは、ハイリスクな分娩の受け入れ対応強化のために、GCU(新生児回復治療室)を4床増床し、12床となりました。今後は県内で初となる新生児用ドクターカーを整備し、県内全域からの要請にも対応していく予定です。

12床

16床

3階 / 集中治療部

3階集中治療部は、手術室の増室に伴い病床を4床増床し、16床となりました。医療機器の充実により、術後の患者さんへ高度な集中管理を提供できる体制を整備しました。



334床

病室

7階から12階は入院フロアです。A棟の病床数は334床。病室は、窓を大きく確保し、明るく落ち着いたモダンな色合いで統一しています。B棟(第1病棟)の病床数は422床、あわせて756床となりました。



個室は静かな療養環境を提供できるよう落ち着いた雰囲気。個室は3種類あり、シャワーを備えた部屋もあります。

60.09m

屋上ヘリポート

1階 / 先進救急医療センター

山口県唯一の高度救命救急センターとして、屋上ヘリポートを整備しました。屋上ヘリポートは地上60.09メートルに設置。1階の先進救急医療センターとエレベーターで直結することで緊急時の受け入れ体制を充実しました。



センター内に病床と初療室、検査機器(CT、血管造影、X線撮影)を集約配置することで、急性期疾患に対して迅速な治療を行います。

8,2,6室

4階 / 手術室

4階手術室は、一般手術室8室、外来手術室2室、特殊手術室6室(MRI手術室1室、ハイブリッド手術室2室、バイオクリーンルーム3室)の計16室となりました。心臓や脳などの血管内治療を行うハイブリッド手術室、手術室とMRIが一体化したMRI手術室など、高機能な手術室を整備しました。10番オペ室には、国立大学病院では全国で2番目となる、「手術支援磁気共鳴画像診断システム」が導入されています。手術中にMRI画像診断ができるシステムです。

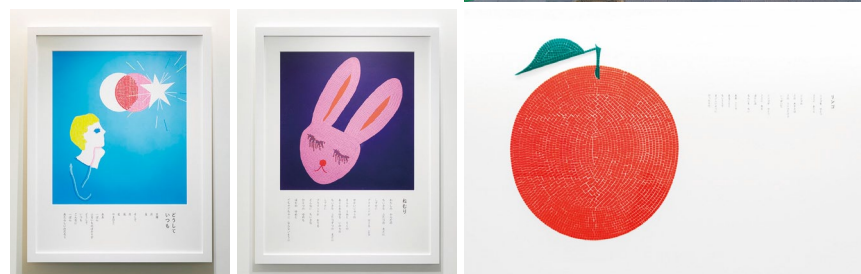
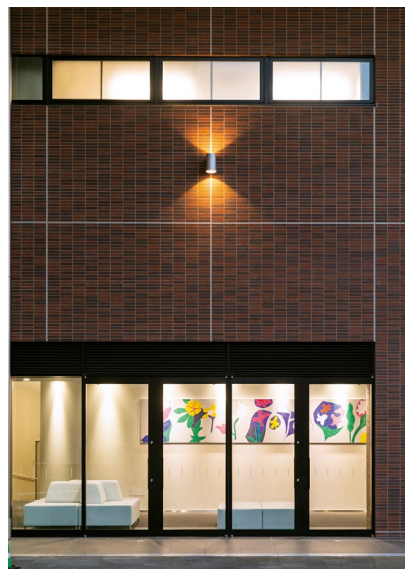




50点

ホスピタルアート

A棟には、約50点のアートが展示されています。各階のエレベーターホールには、山口県出身の詩人「まど・みちお」さんの詩とその詩を基に描かれたアート作品を展示しています。



344席

1階/オーデトリウム

1階オーデトリウムは、最大344席収容可能です。ふれあいコンサートや市民公開講座、学会、セミナー等に利用できます。災害時には、机・椅子を収納し、災害用臨時治療スペース（トリアージスペース）として使用します。

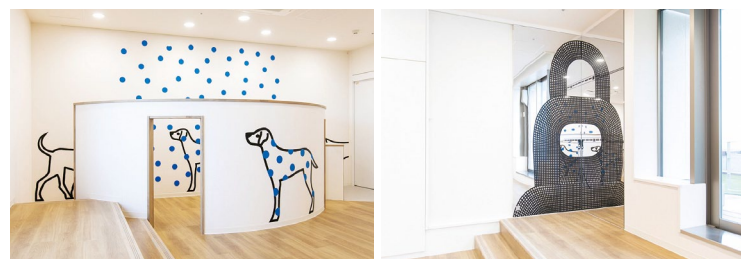


新病棟
A棟の
気になる
数字

26枚

小児科病棟/ホスピタルアート

8階小児科病棟の廊下には26枚の扉の横に、果物や動物などをモチーフに、A～Zをかわいくデザインしたアート作品を設置しています。病室のサインの補助とともにあたたかい環境を作り出しています。



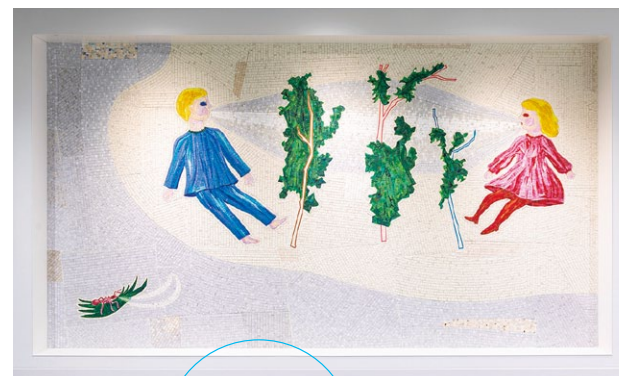
プレイルームには、大人も思わず笑顔になる仕掛け絵本のようなミラーアートを設置しています。

19番



1階/病棟案内

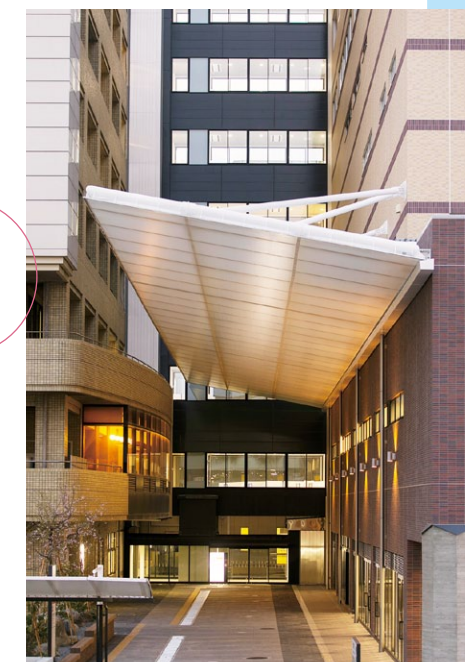
A棟1階エレベーター近くに、病棟案内が移動しました。お気軽にご利用ください。病院案内図の表示番号は19番です。



57.6m

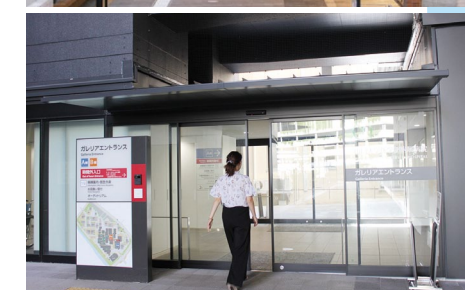
ホスピタルギャラリー

A棟（新病棟）とB棟（第1病棟）の間に大きな屋根を設置し、そのエリアをホスピタルギャラリーと名付けました。屋根の長さは57.6メートルです。A棟1階にはコンビニを設置。B棟1階には11月にホスピタルカフェもオープンします。



1階/エントランスホール

1階エントランスホールには、縦2.4m×横4.3mの巨大なモザイクアートを設置しています。



A棟入り口にはわかりやすい案内板があります。

2.4×4.3m

病院整備計画室だより

A棟の開院にあわせて、B棟とC棟内の案内情報（院内サイン）をより分かりやすくなるよう改修を行いました。視認性に優れた表示内容への変更に加え、今回新たに総合窓口を起点として番号を割り振ることで、目的の場所まで明確で分かりやすい案内を目指しました。数字はアルファベットに比べ馴染みやすく聞き取りやすいため、誤認が少ないことがメリットです。また、建物毎に表示の色を変えることで、視覚的にも見分けが付きやすいよう工夫されています。ちなみにA棟は青

B棟、C棟の案内情報が分かりやすくなりました

色、B棟はオレンジ色、C棟は緑色となっており、案内板の表示番号のほか、エレベーターにも色付けがされています。他にも細かい改修が行われており、患者さんだけでなく病院で働くスタッフにも優しい病院になったのではないのでしょうか。

新病棟の詳細は…

山口大学 再開発

検索

<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>



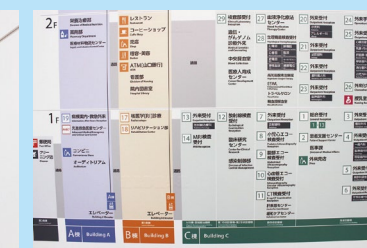
総合受付



足元案内



C棟エレベーター



総合案内板



フロア案内板

就任のごあいさつ



山口大学大学院医学系研究科
放射線腫瘍学講座 教授

田中秀和

令和元年5月16日付で、放射線腫瘍学講座教授を拝命いたしました田中秀和（たなか・ひでかず）と申します。着任にあたり「山大医学部・病院だより」をご覧の皆様にご挨拶申し上げます。

私は香川県で出生し兵庫県、福岡県、愛知県で過ごした後、岐阜大学医学部に入学しました。平成18年に卒業し岐阜大学放射線医学教室に入局しました。岐阜大学およびその関連病院では放射線治療はもちろん、画像診断、核医学、インターベンショナル・ラジオロジーを幅広く学びました。放射線腫瘍学の対象疾患は多岐に亘り、ほぼ全ての悪性腫瘍が含まれます。テクノロジーの進歩が放射線腫瘍学の発展に直結し、まさに日進月歩の領域です。そのため研究対象には事欠かず、私はその中でも特に乳癌や前立腺癌に興味を持ち乳癌の放射線治療技術の向上や前立腺癌の高精度放射線治療に関する研究を行っており

ました。乳癌の放射線治療において線量均一性を向上させる手法であるフィールド・イン・フィールド（FIF）法に関する研究で学位を取得いたしました。またFIF法を他癌腫の臨床に応用しました。近年は放射線生物学の研究にも携わり、放射線増感の研究や放射線治療の早期効果判定に代謝イメージングを用いる研究を行っております。これは従来の形態変化を捉える画像診断に加え代謝情報を可視化した画像を併用するものです。この領域で世界のトップリーダーの一つである米国立衛生研究所（NIH）／米国立がん研究所（NCI）で学ぶ機会を得ました。二人に一人が癌になる時代と言われておりますが、癌治療の三本柱の一つである放射線治療を担う医師が不足しています。山口県では特にその数が少なく、これは多くの地方都市が抱えている問題です。この問題を解決するには一人でも多くの放射線治療医を育成するしかありません。学生・研修医に放射線腫瘍学の楽しさ・魅力をアピールし多くの治療医育成に力を注いで参る所存です。大学病院での特殊な照射は別として、患者さんが地元の病院で等しくある一定レベルの放射線治療を受けられることができるように目指していきたいと思っております。先生方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



山口大学大学院医学系研究科
薬理学講座 教授

朝霧成挙

令和元年9月1日付で、医学系研究科薬理学講座の教授を拝命しました朝霧成挙（あさぎり・まさたか）と申します。着任にあたり「山大医学部・病院だより」をご覧いただいている皆様にご挨拶申し上げます。

私は、山口県と同じく、瀬戸内海と日本海に面した海岸線を有する兵庫県に生まれ、姫路城を仰ぎ見ながら育ちました。慶應義塾大学と東京大学大学院にて、多様な天然物由来薬剤（抗菌薬、抗ウイルス薬、抗癌剤、免疫抑制剤など）の性質調査を行うとともに、インターフェロンの産生と奏効のメカニズム解析を行い学位を取得しました。大学院修了後は、日本学術振興会特別研究員（東京大学医科学研究所）、東京医科歯科大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校を経て、2011年より京都大学医学研究科、2016年より名古屋国立大学薬学研究科において、産学連携の新しい

枠組みのもとに創薬研究を推進して参りました。

この間、ヒトゲノム計画の完了、タンパク質・脂質などの質量分析技術の発展、個体から分子レベルまでを扱うイメージング技術の向上、莫大知見を扱うデータサイエンスの一般化など、医学研究に加速度的な変化がありました。これにより、古典的薬理学が想定した様々な受容体、チャネル、コンパートメントなどの実態が明確となり、従来の薬理学が「薬物作用の仕組みを記述する学問」であったのに対し、現代の薬理学は「標的に直接作用する薬物を、理解・デザインする」実行型の学問に変わりつつあります。顕著な例として抗体医薬品の目覚ましい勃興があり、また加えて、個々のゲノム情報を利用したテーラーメイド医療や細胞療法も実現しつつあります。

このような変革期に、伝統ある薬理学講座を引継ぐことは、チャレンジングかつ大変光栄なことと存じます。研究や教室の発展に尽力するとともに、薬理学教育を通じて、確立された学問知識の習得だけでなく、日々生み出される研究成果や技術変革に対応できる人材を養成し、現場で活躍できる医療人の育成を目指します。何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

よろしくお願ひいたします

OPEN CAMPUS REPORT

2019 山口大学医学部 オープンキャンパス 開催!

8月9日(金)、2019年度山口大学医学部オープンキャンパスが、小串キャンパスで開催されました。今年も天候に恵まれ、1,100人の高校生と保護者の参加がありました。

医学科では、入試説明の後、グループに分かれ各講座の体験学習や基盤系研究室等の見学、総合周産期母子医療センター等



医学科 在学生との懇談会の様子

の附属病院施設の紹介が行われました。在学生との懇談会では、受験勉強の方法や入学後の部活動に関することなど様々な質問があり、それに対し在学生からは、医師になるという強い意志を持ち続けて受験勉強に取り組んでほしいなど、先輩として回答がありました。

保健学科では、看護学専攻と検査技術科学専攻に分かれて、両専攻の入試及び教務関係の説明の後、実習室の見学や個別相談が行われました。参加者は普段体験することのない実習体験などができ大盛況でした。



保健学科 実習体験の様子

医学教育
センター
だより

9月2日(月)、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されている徳山高校の生徒が、研究開発活動推進の一環として本学にて参加体験学習を行いました。

医学科の5講座(分子細胞生理学講座、システムズ再生・病態医化学講座、薬理学講座、免疫学講座、医学教育学講座)に生徒10名が訪問し、「自己開発コースへの参加体験」という授業テーマで、基礎医学実験を見学・体験しました。

生徒達は医学部の実験を見学・体験するのは初めてで、

徳山高校の生徒が研究室を訪問しました。



最初は慣れない様子もありましたが、興味を持って取り組んでいる様子でした。その後、昼食をとりながら、医学科学生との懇親会を行い、午後からも引き続き「自己開発コースへの参加体験」を行いました。

栄養治療部

季節のレシピ

Seasonal Recipe



材料 小30個分

[生地]

- 米粉(上新粉)……100g
- 長芋(とろろ)……100g
- 長芋(角切り)……100g
- 卵……1個
- だし汁(または水)300cc

[具材]

- たこ、ウィンナー、缶詰など好きな具材……適量
- 敷き油……適量
- ソース、マヨネーズ、かつお節など……適量

今回、たこではなく家にある缶詰や練り物などの材料を使っています。たこがなくても余り物で、また食べる人に合わせて具材を変えられるので、みんなで手軽に楽しめます。いろいろ試してみるとおいしい発見があるかも。

作り方

[生地]

だし汁(水)に卵を割り入れ、米粉、とろろ芋を入れ、よくかき混ぜる。さらに、皮をむき5mm程度の角切りにした長芋も加えてよく混ぜておく。(長芋は変色しやすいので手早く!)

[具材]

たこ焼き器に入る程度の大きさに切り揃えておく。加熱したたこ焼き器に油を敷き、半分ぐらいまで生地を入れたら具材を中に入れる。再び生地を穴からあふれるぐらいに流し入れながら、焼いていく。ふちが焼けてきたら竹串などでひっくり返して丸く焼いていく。こんがりときつね色になったら、皿に盛付けソースなどをかけて出来上がり。

◎監修：有富早苗・福田有子

Today's menu

長芋たっぷり「サク・ふわ」たこ焼風

過ごしやすい季節となり、イベントなどで人が集まる時期。今回はたこ焼き器を使用して、みんなで楽しめるこんな料理はいかがでしょう。たこ焼き器がない場合は、フライパンでお好み焼きのようにもできます。

長芋(とろろ・角切り)を生地に入れて焼いているので、「サク・ふわ」な食感が楽しめます。



生地は米粉を使用しており、具やソースも小麦粉不使用のものなら、小麦アレルギーのある人でも楽しめます。また、生地にきな粉を加えると香ばしい風味が加わりますよ。

長芋の効用

芋類の中で唯一生食できる「ヤマノイモ」の中の品種である「ナガイモ」。旬は秋から冬にかけての11～12月頃。消化酵素が多く含まれ、新陳代謝を活発にし、疲労回復に効果的です。特有のぬるぬるした成分が粘膜を潤し、胃粘膜を保護する働きがあるので疲れた胃を助けてくれます。コレステロールを取り除き、血液中の脂質が酸化するのを防いでくれる成分も。食物繊維も含まれています。消化酵素は加熱すると働きが弱まってしまうため、生でとろろや短冊切りの和え物などで楽しむほうが効果的です。加熱すると食感が変化し、色々なバリエーションの料理を楽しむことができるのもこの芋のいいところです。今回も加熱して味わえる、ふわふわ食感を楽しむために生地に加えています。

参考文献：食の医学館、知っておきたい野菜の基本

Topics トピックス

山大医学部・病院の旬な話題を発信!

小児科病棟で夏祭りを開催しました

9月5日(木)、小児科病棟で夏祭りを開催しました。

昨年に引き続き日本航空(JAL)山口支店の協力により、パイロット体験や折り紙ヒコーキ教室、的当てゲーム、ストラックアウトなどたくさんイベントを行いました。

会場にはJALの整備士が手作りした段ボール製の原寸大コックピットが設置され、子ども

達は操縦席に座って、航空シミュレーション画面を見ながら飛行機の操縦を疑似体験しパイロット気分を味わいました。

また、的当てゲームでは景品獲得のたびに大歓声があがり、折り紙ヒコーキ教室では、よく飛ぶ折り紙ヒコーキの作り方を紙ヒコーキ協会認定のインストラクターに教わるなど楽しい時間を過ごしました。



公式Facebookページで
山大病院の情報を配信中!!



皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。
今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。
FAX 0836-22-2113 E-mail me202@yamaguchi-u.ac.jp
企画発行 山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2007
医学部 <http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>